

教宣 せぶん

株主になろう

私たちは、昨年のミレアホールディングスの株主総会に「要請団」を組織して、株主として参席しました。皮肉にも、この株主総会の場が、私たちとの団交や経協に決して顔を見せない当社のトップと、まともに向き合えた唯一の機会でした。そのなかで「東京海上日動社は国連のグローバルコンパクトに署名していると言っているわけだが、その遵守すると署名した項目のひとつに『働くものを大切にする』というものがある。しかし、社員制度の制度廃止を強行し、また便宜供与についても組合差別だからとやめなさいと都労委から文書で勧告を出された姿は、どうみてもグローバルコンパクトの趣旨を守っていないと思うが、どう考えているのか?」という内容の質問をした場面があったそうです。石原社長は「労使の問題は社内で解決する」と答えたそうですが、その場ではそう答えるしかなかったのでしょうか。それからというもの、自社をPRする会社広報などに「グローバルコンパクトに署名した企業である」という文言が見受けられなくなりました。詳細は定かではありませんが、株主総会でのこの質問が間違いなくこの「因果関係」に大きな影響を及ぼしたと確信します。

また「提訴」を理由に、私たちにだけ代理店への転進策を撤回し、都労委からの是再勧告も守らなかった経営が、6月に「撤回の撤回」を行なってきた背景には、やはりこの「株主総会」があったと思われます。第三者機関からの是正勧告を受けたままでは株主総会を乗り切るのに障害があると判断した経営が、その前に障害となる「ネタ」を取り除こうとしたのが、ことの真相だと思います。さらに言えば、私たちの社員制度の廃止理由も突き詰めていけば「株主に顔向けできない」というものでした。

こう見ていくと経営者の立場からすると、この株主総会がいかに「怖い存在」であるかがよくわかります。「重視」しているかがわかります。東京海上日動の経営は「都労委の是正勧告に従ったわけではない」と断言しました。都労委の存在そのものを軽視しています。地位確認訴訟では「企業の専決事項に裁判所は口を出すな」という論調を繰り広げました。公の第三者機関や裁判所に何を言われようが、「企業利益」を優先するというのが、経営者の考え方のようです。しかし、株主総会での「ひとつの質問」や株主総会の存在そのもので施策が変わり、また社内では絶対に向き合おうとしない経営者にもこの場では面と向かって質疑をぶつけることができるのであれば、私たちのたたかいをさらに前進させるためにこんな絶好のチャンスはありません。この場を利用しない手はありません。幸いにもミレア株は分割され、私たちにも手が届きやすくなりました。勝利への投資だと考えれば、決して高い買い物ではありません。株主になって株主総会に乗り込みましょう。